

# 川高同窓会報

埼玉県立川越高等学校同窓会  
〒350-0053 川越市郭町2-6 川越高校内

【同窓会】電話・FAX (049) 225-9071 (直通) <http://alumni.gnk.cc/kawagoe/>  
【学 校】電話 (049) 222-0224 (学校) <http://www.kawagoe-h.spec.ed.jp/>

## 集おう、自然と文化の同窓会活動に



秋季散策会 (P3)



川高初雁の森の下刈り (P4)



総会・記念講演 (P5)



文化講演会・高橋明氏 (P20)



第3回植樹祭・くすの木植樹 (P4)



総会・懇親会 (P5)

					
新聞部	美術部	将棋部	古典ギター部	スケート部	物理部

全国大会  
出場者を激励  
(P22)

会長挨拶	田中 正	2
新校長挨拶	青木勇藤	2
前校長挨拶	細田 宏	2
秋季散策会		3
27年度案内・飯能初雁会		3
26年度報告・入間初雁会		3
「川高初雁の森レポート」		4
同窓会総会・記念講演		4
滝澤民夫氏		5
各地区初雁会の活動		6
在京・飯能・志木・日高・東松山・坂戸・越生・狭山・川島桶川・小川の各初雁会		6
くすの木俳句大会		9
終身会費の御礼		9
<b>特集</b>		
「各クラブOB会の活動」		10
定時制ものがたり		14
全国大会での活躍		14
投稿		16
母校だより(一)		19
人事異動・退職・転任挨拶		19
母校だより(二)		20
文化講演会 高橋明氏 (東北大学医学工学研究科・医学系研究科教授)		20
母校だより(三)		21
SSH報告		21
母校だより(四)		22
進学状況・部活動報告		22
事務局より		23
叙勲受章者・寄贈図書等		23
同窓会総会のご案内・編集後記		24

### 目次

いじめごわい



同窓会長

田中正

会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

今年の9月28日に第三回植樹祭を実施しました。当日は15名の応援団員を含む40名の在校生と60余名の同窓生が参加してくれました。

応援団員に気合を入れてもらい作業に取り掛かりました。以前に鹿害等により手入れを必要な箇所サルスベリ、ナツツバキ、ナンテン等を植樹いたしました。今回で1haの植樹が終わり、立派な森づくりのために今後も下草刈り、鹿害等の継続的

着任に当たって



校長  
青木 勇藤

平成27年4月1日付けで、前任の細田宏校長を引き継ぎ着任いたしました青木勇藤と申します。本校の輝かしい歴史と伝統、文武にわたる実績、さらにグローバル社会におけるリーダーとしての人材育成というミッシヨ

な手入れが必要です。

秋季散策会は入間初雁会主催

「首都圏に残された本物の自然満喫と武蔵野音楽大学楽器博物館の見学」を実施しました。70余名にご参加いただきました。

楽器博物館担当の守重先生に説明頂き「水野コレクション」を含む様々な楽器約千点を見学させて頂きました。その後、加治丘陵尾根伝いの南コースの雑木林を散策しました。桜山展望台からスカイツリー、富士山のすばらしい眺望を楽しみました。

今回は飯能初雁会主催で「川高初雁の森」等をご案内して頂くことになっております。奮ってご参加下さい。

同窓会総会の記念講演は滝澤民夫氏(高18) 早稲田大学教育学部講師による「川越中学建学精神と初代校長増野悦興」とい

んに思いを致しますと、その職責の重さに改めて身の引きしまる今日です。

私は、本校を昭和51年3月に卒業しました(高28回)。以来四十年近くを経、校長室から見ると比べると格段に太くなっています。現在の管理棟も私が高校生の頃、その一部が建設され、3学年のみが教室として入れました。正門を入って北側にあった食堂の影もありません。とい

う演題で、格調高い講演をして頂きました。増野校長に「礼・節・質」の三徳を標榜、極めて高貴な人格者であったとのこと、生徒から深く慕われていた。三年足らずの短い期間であったが、創設以来、学校のためだけを考へ一心を捧げてその事業にあたり川越中学校の校風を築きあげられたとのことです。

川越高校には同窓会からSSHの支援、大学受験書の参考書寄贈、スクールカウンセラーの支援等を行いました。今後とも学校には出来る限りの協力をしていきたいと思っています。

今後も「川高初雁の森」の完成に向け一層努力して参りたいと思っておりますので、会員の皆様方のご支援、ご協力よろしくお願いたします。

つた感慨に浸っている間もなく、今日の教育を取り巻く環境の急激な変化の中、教育の在り方の転換をどのように図っていくか、本校として如何に有効な教育システムを充実させていくかなど、大きなテーマが課せられております。この課題の解決に向け、学校の持てる教育力をフルに発揮し、教職員の総力を結集して、生徒、保護者の期待に応えられるよう精一杯努めてまいりたいと思えます。

田中正会長様をはじめ、同窓会員の皆様におかれましては、従前と変わらぬご支援、ご鞭撻

お世話になりました。



前校長  
細田 宏

を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

このうち本県で初めて実施された「エンパワーメントプログラム」については、参加者全員が「満足」していました。また、「英語を使うことの恥ずかしさがなくなり、積極的になった」、「物事を前向きに考えられるようになった」など、自分の中の価値観が変わり、なんらかの成長を感じていました。

昨年度本校では「目指す学校像」の後半を「グローバル化が進む社会の中でリーダーとなる進取の気性に富んだ良識ある人材を育成する」に改めました。今後とも、生徒達には、グローバル化が進む社会の中で、苦難や困難、課題に積極的に取り組む進取の気性に富んだ良識ある人材として、グローバル感覚に基づいた視野と積極的に発信できる英語力を持って、志の高いリーダーシップを醸成し、21世紀の社会を担うリーダーに成長して欲しいと願っています。

これからは一会員として、後輩の生徒のため、母校の発展のために応援団となつていきます。これまでと変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

私は幸せなことに母校の校長として二度の春秋を経験させていただきました。この間、ご迷惑を掛けながらも何とか大任を果たすことができましたこと

も、田中会長様をはじめ、会員の皆様からの全面的なご支援とご協力の賜物と心から御礼を申し上げます。

さて、本校では国際交流プログラムを再構築を進めており、平成26年度から新に国際交流事業「Go Global」を開始しました。STEP1として、1年生各クラスに英語圏以外の国から学ぶ「異文化理解プログラム」を、STEP2では、留学生等による英語演けの「エンパワーメントプログラム」を本校セミナー室で45名の生徒の参加を得て実施しました。STEP3として、カリフォルニア州立大学バークレー校への短期留学「次世代リーダー養成プログラム」により3月下旬に13名の生徒が留学しました。

卒業生等から学ぶ「異文化理解プログラム」を、STEP2では、留学生等による英語演けの「エンパワーメントプログラム」を本校セミナー室で45名の生徒の参加を得て実施しました。STEP3として、カリフォルニア州立大学バークレー校への短期留学「次世代リーダー養成プログラム」により3月下旬に13名の生徒が留学しました。

秋季散策会  
27年度のお誘い

飯能初雁会

『名栗湖畔川高初雁の森と歴史ある「吾野宿」を訪ねる』

平成24年から同窓会事業として始まった「川高初雁の森」が成長してきました。名栗湖を背景にした樹々は紅葉の季節になります。



川高初雁の森からの展望



吾野宿  
歴史ロマンを訪ねる旅

- 一 日時 11月21日(土)  
午前9時集合
- 二 集合場所  
西武池袋線飯能駅南口
- 三 散策会出発  
午前9時10分  
専用のバスで移動します。
- 四 懇親会 午後1時  
会場 「休暇村奥武蔵」  
飯能市吾野72番地  
042-978-2888
- 五 会費 6,000円  
(同伴者4,000円)

大河原 義重(高14)

23年度に「埼玉県景観モデル地区」に指定された所です。懇親会は、全国の休暇村で最も新しい「休暇村奥武蔵」が会場になります。



休暇村奥武蔵

奮ってご参加下さい。

【散策詳細】

平成26年度  
散策会の報告

楽器博物館見学と

加治丘陵散策

入間初雁会

平成26年度秋季散策会が入間市で11月15日開催された。晴天の下武蔵野音楽大学に71名が集合、音大ご厚意の校内バスで楽器博物館へ。



武蔵野音楽大学楽器博物館の入口で記念撮影



ピアノ・オルガンのコレクションに魅入る

1Fは由緒あるピアノ・オルガンのコレクション。2Fは和楽器、3Fには世界の楽

器が展示されている。校内に棲むというムササビの巣箱を見学し、木立に囲まれた加治丘陵の散策道をしばし歩き桜山展望台へ。



桜山展望台

ここからの眺望は良く東にはあのスカイツリーが、また西には富士山が一望できた。



急斜面を下る。皆さんお元氣である。下山後しばし休息し、路線バスで懇親会場の丸広百貨店さくらホールへ移動する。

13時半、懇親会を開始。原田入間初雁会会長(中46・47)の歓迎の言葉、田中同窓会長(高6)、細田川高校長(高

25)にご挨拶いただいた後、田中入間市長(高23)の音頭で乾杯:楽しい宴が続いた。渡辺飯能初雁会副会長(高10)から次回開催の力強い決意をうかがった後、入間初雁会岩田さん(高11)のリードで応援歌・校歌がホール一杯に響き、秋の散策会は無事終了した。

ご参加の皆さん、武蔵野音楽大学関係者の皆さまありがとうございました。



むらさき句う~♪



入間初雁会スタッフ

栗原 忠男(高20)

# 川高初雁の森レポート

川越高等学校同窓会が地域貢献事業の一環として取り組んでいる「川高初雁の森」づくりも3年目を迎え、鹿に芽を食い荒らされるなどの被害はあったものの、鹿対策などの結果、これまでに植樹した苗木は着実に根付いている。

## 《下刈り作業》

6月13日(金)平成26年度の川高初雁の森下刈り作業が実施された。参加者は、事業部会幹事を中心に約30名。朝9時、飯能駅南口に集合、チャーターバスで現地へ。



市川部会長の挨拶

9時半から市川事業部会長の挨拶、管理をお願いしてい

る森の番人さんから作業上の注意を受けた後、さっそく下刈り作業を開始する。快晴。5分ほどの作業で汗が噴き出してくる。30分ほどの作業で小休止。



下刈り作業中

快晴の空が突如、怪しい雲行きに…。作業に慣れた頃、突然の雷鳴!そして豪雨!作業を中断し回復を待ったが、雨はひどくなるばかりで11時、作業の中止を決定。それでも予定の半分ほどは下刈りができた。森の番人のお話では昨年、一昨年に植えた木々は順調に育っているとのこと。「さわらびの湯」で懇親会。雨に濡れた体を温め、英気を養った。

## 《第3回植樹祭》

9月28日(日)「川高初雁の森」第3回植樹祭が開催された。田中同窓会長、市川初雁の森事業部会長、細田校長などOB約50名、新聞部、山岳部、応援部など生徒40数名、併せて100名余りが参加した。今回の目玉は「応援部」の参加。会長挨拶などセレモニーの後、学生服も凛々しく応援部がエール。校歌が名栗湖畔に響き渡った。



現役応援部の激励演技

エールに勇気づけられた植樹作業は、まず、雪によって枝が折れてしまった楠を植えることから始まった。田中会長、細田校長、そして生徒代表が植樹した。1時間半ほど汗を流し、100本ほど植樹。今回は初めて、苗木、土、水を運んだ

ためかなりの重労働となった。生徒の参加がなかったらどうなっていたことだろうか?植樹後は、「さわらびの湯」で懇談・会食。懇親会の終りに応援団長のリードで校歌を斉唱。植樹祭は無事終了した。



## 《植樹祭に参加して》

### 小池 純一(高41回)

初雁の森事業に息子と共に第1回から参加をしています。

当初は「記念植樹」程度を予想しており、4歳であった息子に植樹体験をさせたいとの思いから、一回限りの参加を予定していました。

しかしながら、この参加で息子共々はまってしまいました。というのも、青い空と緑の山々、そして眼下には名栗湖と、こんなにも恵まれた環

境で、森を創る実感を親子で共有できる、本当にすばらしい事業だったものですから。息子には、その後の温泉も大きな魅力のようですが(笑)

既に三回の植樹と一回の下草刈に参加をしました。今では初雁の森は息子の自慢の森であり、妻に自分が植えた木などを案内している姿を見につけ、息子の成長を感じています。また、いつか私は川高OBとして、息子は現役生として、初雁の森の成長を振りかえることができたらと、ずいぶん早い感慨にふけています。来年もまた、一緒に参加をしたいと思っています。宜しくお願いします。



小池氏親子の植樹

## 《27年度事業予定》

### ◆6月19日(金)

下刈り等作業

### ◆9月27日(日)

第4回植樹祭

同窓会総会 講演概要

### 川越中学の建学精神と

### 初代校長増野悦興の生涯

滝澤民夫(高18)



### 初代校長増野悦興の謎

川越高校には9年間社会科  
教員として勤務し、校内幹事  
として8年間同窓会報編集に  
携わりました。その間、川越  
中学校の建学精神をうち立て  
た初代校長増野悦興の事績を  
知りました。当初の謎は、33  
歳で初代校長となり、卒業生  
も出すことなく36歳で休職と  
なったことで、東京の雑司ヶ  
谷墓苑の墓所探しから始まっ  
てご遺族がわかり、疑問が少  
ずつづ解けてゆきました。  
津和野出身で、同志社英学  
校を卒業直前に退学し、敬愛  
する恩師新島襄の説得でキリ

スト教の伝道師となり、北米  
新英州マサチューセッツ州  
ボストンのアンドバー神学  
校・カナダ境メイン州バンゴ  
アのバンゴア神学校に3年間  
修学した増野は、帰国後牧師  
を経て、教育界に転じました。  
1899(明治32)年4月には  
埼玉県第三中学校(川越中  
学校) 初代校長として赴任  
し、3年余りでしたが教職員  
の中心となつて学校の基礎を  
作りあげました。増野の教育  
活動は建学精神である「礼  
節、質の三徳による人格の完  
成」に象徴され、今日に引き  
継がれています。

幕末に日本を密出国した安  
中藩士新島襄は、上海経由で  
ボストンに上陸し、その地で  
本邦初の理学士となり、アン  
ドバー神学校を経て、宣教団  
体アメリカンボードの牧師と  
して帰国し、同志社大学設立  
を目指しましたが46歳で他界  
しました。欧米列強諸国の圧  
力のもと、日本は明治維新を  
はさんで近代化を迎えた激動  
期でした。

一九世紀末〜二〇世紀初  
頭、森林太郎のベルリンから  
帰国後に増野悦興がボストン  
に、増野の帰国後に夏目金之  
助がロンドンに留学してい  
て、三人は明治の知識人とし

て強い国家的社会的使命感と  
ともに、近代化のなかでどう  
自我や人格を形成するかと葛  
藤しました。鷗外と漱石は国  
民的作家として知られ、川越  
中学校初代校長の雷軒増野悦  
興は不遇な生涯もあつて埋も  
れてきました。しかし、増野  
が提起した教育方針とその思  
想は検討に値します。

### 青年の生き方の模索

『あおげば尊し』に、「身を  
たて 名をあげ、やよ はげ  
めよ。今こそ別れ目 いざ  
さらば」とあります。愛より  
も立身出世を選ぶ「舞姫」の  
大田豊太郎を、増野は「批判」  
しています。近代は青年の  
生き方の模索の時代でした。

同志社退学の挫折で増野は  
新天地を模索し、派遣された  
宮崎県高鍋で知り合ったのが  
同地出身の石井十次でした。  
立志に際し、医師・伝道・孤  
児救済の選択で石井は増野と  
語りながら、己の使命とし  
て岡山孤児院を創設し、社会  
事業実践者として宮崎県茶臼  
原に戻りました。故郷を喪失  
した増野は伝道・教育・人生  
探究を自己実現の目標として、  
理念追求者として「高貴なる  
人格」を希求しました。

### 増野悦興の教育活動

中学校創設に際し、増野は  
キリスト教主義ではなく、儒  
教道徳の涵養を教育の柱にし  
ました。そして青年教育の指  
針として、生徒会とも言うべ  
き校友会を「生徒の自治自修  
の機関」とし、教育の目的と  
して、「常に真面目にあるは  
人たるの道にして、常に国に  
尽くすは国民たるの道なり」  
とも述べています。増野悦興  
は川越中学建学の精神を、

- 一 忠愛精神と国民本領の  
理解
- 二 自治自修
- 三 進歩思想と堅実な品性
- 四 礼、節、質の三徳によ  
る人格の完成

としたのです。これは新島の  
薫陶と北米で見聞した「自修  
自治自活」の精神によります。  
県当局と折り合いが合わず  
に川越中学校を退職した増野  
は、ユニテリアン系の同仁教  
会の飯田町教会主任牧師とし  
て活動を続けつつ、青年育成  
と道徳確立をめざして、成民  
会を作り雑誌『成民』を発行  
しています。ただ、その主張  
はキリスト教主義から儒教道  
徳に近い思想に回帰してゆき  
ました。それらは晩年の著作  
『高貴なる人格』や、一回生

で七代校長の岡田恒輔が没後  
一〇年忌に刊行した『筆華舌  
英』にまとめられています。  
故郷のあるなしが生き方に  
影響するなら、ふるさとに生  
きたのが石井十次や夏目漱石  
で、ふるさとを喪失したのが  
森鷗外や増野悦興でした。ふ  
るさとを創生したのが新島襄  
であったとするなら、心のふ  
るさと川越中学〜川越高校を  
胸に生きることが、増野が果  
たせなかつた夢を実現するこ  
ともになります。

日本の近代の思想家が取り  
組んだ「人はどこから来てど  
こに向かうのか、人は何のた  
めに学ぶのか」との問いは、  
増野悦興からも次世代に受け  
継がれてゆくでしょう。

増野悦興と妻咲子と長女文子



\*増野悦興初代校長のお孫さ  
んの木村滋子氏と増野潤吉氏  
が講演会と懇親会にご臨席い  
ただきました。

# 各地区初雁会だより

## 「在京初雁会」講演会

講演者 大河原義重氏(高14)



演題 『国会から吾野宿再生へ(日韓新時代を高麗郡から発信)』

一年時に毎日、校歌・応援歌を教えられ、甲子園に応援に行った思い出があります。大学を卒業後、昭和48年に縁があり国会議員の秘書になり、36年間国政に関わってきました。当時の秘書の仕事は議員に何かあったときの身代わりのできる者・金を集め管理する者・選挙区のお世話をする者、とそれぞれの役割がありました。そして資金は自由に集め、使えました。しかし、政治資金管理法が出来てから議員は国民の前に丸裸です。今や議員も秘書もサラリーマンになってしまい、日本の国はどうなるのか心配です。私の生まれた飯能市吾野は

業GE(米国)、そして世界最大の人材派遣企業アデコ(スイス)と、それぞれ国籍の異なるグローバル企業三社で、通産50年間に亘りフルタイムで勤務した特異な経歴の持ち主で、そのグローバル人

生におけるこぼれ話をお伺いしました。海外雄飛を志した同氏が、丸紅で最初に受けた辞令は思いもよらぬ国内の人事部勤務で、入社辞退騒動を起こすが、しかし、やがて念願叶い海外部門に転じて、若くして赴任したラテンアメリカ諸国や帰国後は中近東・アメリカの産油国市場で、一貫して鉄道・港湾・橋等の社会インフラ建設事業に携わり、悲喜こもごものエピソードの中で、与えられた環境下での弛まぬ精進と関係者との人的信頼関係の醸成に特に努めた、と語られた。

更に、バブル期の丸紅で本邦初のベンチャー金融事業を企画・創業、やがて同種事業を世界展開するGE社の金融部門が着目し、多額のプレミアムを支払ってM&A。同氏は請われてGE社に転出し、以後18年間に及ぶ外資系での活躍を全うする。異文化の壁を乗り越えた究

極のグローバル企業経営GE・Clutureとの出会い、同氏の長い企業人生における最高の授かり物であったとのこと。「塞翁が馬」さながらの波澜万丈の企業人生を振り返りつつ、同氏は「頑健な体力と不屈の精神力を育んでくれた両親と故郷、転機を導いてくれた川越高校の恩師、そして支えて貰うことのみ多かった多くの貴重な知己と家族への感謝」の想いを述べられた。本橋孝之(高25)記

## 「志木初雁会」講演会

講演者 伊得洋行(高15)



演題 『関根伸夫の作品と志木駅前風景の意味』

志木市役所駐車場に関根伸夫氏(高13)の代表作「空想」がずつしりと大手を上げた形で市を見つめている。このモニュメントがなぜここにあるのか、知る人は意外と少ない。彼は志木小6年から志木中、

川越高校、多摩美術大学を卒業するまで志木市で過ごした。市庁舎は昭和47年に新築されたのを記念して当時の埼玉銀行が寄贈した。箱根彫刻の森、美ヶ原高原などで「空想」は人々に問いかけている。又、イタリヤのピエンナレ展にも日本代表として出品された。更に、彼の感性はヨーロッパ中に広がり、デンマークのルイジアーナ美術館では「ノブオ・セキネ・パーマネントコーナー」を作り、「空想」を展示、彼の感性を称えている。(志木市役所前)



志木市役所前にある「空想」は、鏡面角材ステンレスを柱に三波石を横に乗せたフォルム。鏡面だから周りの景色が映り込み、まるで大石が宙に浮いている錯覚を覚える。これを見て何を空想するかとい

う問いかけ感覚が日本、世界の美術界に新しい切り口を開いた。

志木駅前遊歩道にも彼の作品「四季のパピリオン」「花のシエルター」「雲のシエルター」がある。「四季のパピリオン」は市章を立体化。花、雲の二作品は市歌がモチーフだ。遊歩道の周りには彼の中学時代の師であり、叔父であり、先輩(中40)の池田要氏の切り絵が66枚も並んでいる。志木の現風景と暮らしを表現したものだ。

(本校の正門と校歌碑は百周年記念事業として関根氏に制作いただきました。)

伊得洋行(高15)記

### 「日高初雁会」講演会

講演者野口 勲氏(高15)

(野口種苗研究所代表)

演題「いのちの種を未来に」

飯能市郊外にある野口さんの研究所は、全国で唯一の固定種タネ専門の店です。固定種とは、その土地の気候風土の中で、何世代も掛けて選抜淘汰を繰り返してきたタネのことです。

一方、多くの消費者が食べている野菜はF1と呼ばれ、雑種強勢という植物の持つ性

質を利用した交配種の野菜です。一代限りの優秀さを求めたものは、細胞の密度は粗くなり、ビタミン、栄養価は低くなります。雄性不稔という男性機能を失った植物を母親に持つ野菜を食べれば、人間への影響も出てくるのでは？固定種はタネを取りながら命を維持し続けていきます。私はそんな日本の食生活のタネの危機を心配しています。



(追記)

野口氏は、雑誌「致知」人間学を学ぶ月刊誌(2014年7月号)で、内閣総理大臣夫人・安倍昭恵氏と「生命の花を咲かせ続ける」と題して対談しております。

大澤芳文(高14)記

### 「東松山初雁会」講演会

講演者高島敏明(高16)



演題「真の郷土の振興」

私は郷土の歴史に埋もれた比企一族の発掘・顕彰こそ地方覚醒の狼煙になるという信念・直覚から平成5年に比企一族をテーマとした郷土史劇「滅びざるもの」を企画・上演した。その後も「比企一族顕彰碑」の建立、「甦る比企一族」の刊行、又、地酒「比企三姫」の開発さらに比企氏の800年遠忌に当たる2002年には映像「比企讃歌」を企画・制作した。

私が郷土の師父と敬慕する関根茂章先生の御高著『師父列傳』に次の一説がある。

曰く、「真の郷土の振興は先人の遺風業績を新たに掘り起こすことから始まる。過去を継承せずして健全な未来の創造はあり得ない。」

私は先生のお言葉、心情を私なりに地で行ったものである。

高島敏明(高16)記

### 「坂戸初雁会」講演会

講演者安野 昇氏(高8)

演題「ユダヤとイスラム」

坂戸初雁会では毎年行われる総会時に、講演会を実施しています。

平成26年12月7日に、北坂戸駅前「オルモ」で行われた第21回総会では、坂戸市在住、当会理事の安野昇氏(高8)の講演が行われました。

安野氏は現役時代、母校で世界史及び倫理社会の教鞭をとられた方で、当日は「ユダヤとイスラエル」と題し、中東の歴史と現在の難しい情勢に至る民族や宗教などの課題について丁寧な解説がありました。



この日のために、研鑽を重ね

ね充分な研究をされてきたことが伺え、受講者として感謝いたしました。

当会では、原則として同窓生に講演を依頼しておりますが、経験に裏打ちされた先輩方の講演は毎回素晴らしいものがあります。

今後とも当会が発展し、お互いに親睦が図られるよう会員一同で頑張つてまいります。

新井 彪(高26)記

### 「越生初雁会」講演会

講演者松本万夫(高22)



演題「高血圧と心臓病は怖い」

越生初雁会の講演テーマは初回から一貫して医療シリーズと決め6回目となる。平成26年度の講師は埼玉医科大学心臓内科教授・松本万夫先生(高22・広島大学医学部卒)でした。

講演内容は、血圧の成因と計測、血圧の基準、高血圧の

種類(病態が明らかな二次性高血圧が全体の10%未満で90%以上は遺伝性要因、環境性要因である)、高血圧の疫学、高血圧による疾患(動脈硬化、狭心症、心筋梗塞、脳卒中、心不全、腎不全、心房細動)と順を追って解説、最後に高血圧対策(禁煙、塩分摂取一日6g以下、過度の飲酒抑制)を説明、80分の講演に全員一同、興味深く聴き入った。



「狭山初雁会」講演会  
講演者 江原幸雄(高18)

越生初雁会総会での記念講演『医療シリーズ』は非常に好評で、平成27年度も続ける予定です。

加藤博之(高5) 記

演題「地熱エネルギーの利用―現状・課題と将来の展望―」  
半径6370kmの地球の中心温度は6000度、その体積の99%は1000度以上とまさに地球は火の玉である。現在、人類は地下数kmの地熱

エネルギーしか利用できない。それでも大きな貢献となる。  
この地熱エネルギーの利用の方法、仕組み、利点(二酸化炭素の排出が少ない、安定供給が可能)等の説明がなされ、日本や世界での利用の現状が紹介された。  
我が国は2000万キロワットを超える地熱発電ポテンシャルがあり、さらなる開発が待たれる。

「川島桶川初雁会」研修会  
「今回は防災がテーマ」  
当初雁会の活動目的は、会員相互の親睦を深めるとともに母校の発展に寄与することですが、近年は、会員の学習意欲の高まりとともに、知識教養を深める活動の要望が寄せられています。

齊藤太紀雄(高18) 記

小川初雁会(会長・中山雅義・高17)は「初雁川柳句会」を平成25年10月26日、晴雲酒造の酒蔵で開催した。同窓生中心に40人の参加となり、講

「相統税法の改正とその対応」と題してOBの公認会計士に講演を依頼しました。今年から改正された相統税対策に時宜を得たテーマは講評で、参考になったようです。  
今回は、忘年会をかねて、その前に「防災」をテーマに研修を行いました。26年12月、



川島町にある埼玉県防災航空隊を見学しました。  
大型ヘリコプターによる山岳での救難活動、大規模火災での消火など緊急派遣という重要な活動のため、日夜、訓練に励んでいる姿を目の当たりにして感動しました。  
最近では、長野県の地震災害に緊急出動したということでした。

小川初雁会(会長・中山雅義・高17)は「初雁川柳句会」を平成25年10月26日、晴雲酒造の酒蔵で開催した。同窓生中心に40人の参加となり、講

師には、関根堅司氏(高23)の紹介でNHKの『やすみりえのほっと川柳』を主宰する「やすみりえ」さんを迎えて行われました。  
今回の小川初雁会主催文化講演会は、一般参加者も含めたことなど地域行事としても有意義な川柳句会でした。



やすみ先生から川柳についての基本、季語がないなどの講義を受け、楽しい思い出となるよう「笑う」を席題として提案され、各自作品に挑み、その後、優秀作品の発表と講評が行われました。  
句会の後は、会場を「自然処玉井屋」に移し、懇親会となりました。話題の中心は、講師の「やすみりえ」さんで、ほのぼのと優しい語りで、それぞれの川柳を講評してご指導をなされていました。  
蔵元の地酒と料理を一同堪能し、「今日のような川柳会はとても楽しかった。是非次の企画を期待したい。」といった意見がありました。

初雁川柳句会講師・やすみりえ選  
(天) 微笑みが行って戻って 倍になり  
(地) 久しぶり笑顔そろえる 母の味  
(人) 栗拾い子供もイガも 笑ってる  
(佳作) 大口をあけて笑えば二重丸 あなたによ  
受取る電話は娘から 光もの見れば自然と ほくそ笑む 酒囲み笑う笑顔でまた笑い 今日も無事 願う明日の笑顔かな 酒入り昔話に花が咲く 顔のシワ 妻は笑顔のせいと言い こわい顔我慢できない福笑い 笑いとる 苦渋にゆがむものもんだ 台風(かぜ)消えて 笑顔も消えて川柳会 松本真一(高20) 記

師には、関根堅司氏(高23)の紹介でNHKの『やすみりえのほっと川柳』を主宰する「やすみりえ」さんを迎えて行われました。  
今回の小川初雁会主催文化講演会は、一般参加者も含めたことなど地域行事としても有意義な川柳句会でした。

やすみ先生から川柳についての基本、季語がないなどの講義を受け、楽しい思い出となるよう「笑う」を席題として提案され、各自作品に挑み、その後、優秀作品の発表と講評が行われました。  
句会の後は、会場を「自然処玉井屋」に移し、懇親会となりました。話題の中心は、講師の「やすみりえ」さんで、ほのぼのと優しい語りで、それぞれの川柳を講評してご指導をなされていました。  
蔵元の地酒と料理を一同堪能し、「今日のような川柳会はとても楽しかった。是非次の企画を期待したい。」といった意見がありました。

師には、関根堅司氏(高23)の紹介でNHKの『やすみりえのほっと川柳』を主宰する「やすみりえ」さんを迎えて行われました。  
今回の小川初雁会主催文化講演会は、一般参加者も含めたことなど地域行事としても有意義な川柳句会でした。

### 第14回「川高くすの木 俳句大会」のご案内

くすの木句会会長  
柴崎育久(中48)

母校百周年を記念して始めたこの俳句大会も、今年で14回を迎え、参加者も徐々に増えています。本年も開催いたしますので奮ってご参加くださるようお待ちしております。

#### 「ご案内」

日時 8月29日(土)

受付 正午より

句会 午後1時〜5時

会場 川高図書館2階  
同窓会室

投句 夏・秋季雑詠3句  
(郵便葉書に楷書で記述)

投句先 〒350-0048  
川越市南通町15-16

投句メ切 7月31日(金)

消印有効

会費 投句3句に付  
1,000円を郵便小  
為替にて

選者 松本 旭氏(中35)

「橘」主宰  
柴崎甲武信氏(中48)

「春燈」同人  
本阿弥秀雄氏(高18)

本阿弥書店社長

稲妻に走り根きり鞍馬山

佐々木 新(中48)

柴崎甲武信(中48)

婦人の波

百合園は色とりどりの

はるかまで有刺鉄線沖繩忌

木村 麗水(中42)

夏燕菓子屋横丁七曲り

村田のぼる(中41)

法師蝉鳴き止むとき星生れる

松本 旭(中35)



左より本阿弥氏・松本氏・柴崎氏

#### 第13回俳句大会 作品集より

俳句大会は母校関係者(教職員、生徒保護者、卒業生の連れ添いの方等)に幅広く呼び掛け、今回は60名が参加、在校生は409名が応募。紙幅の関係から卒業生、在校生の作品を掲載します。

#### 「卒業生の部」

松本 旭(中35)

法師蝉鳴き止むとき星生れる

村田のぼる(中41)

夏燕菓子屋横丁七曲り

木村 麗水(中42)

はるかまで有刺鉄線沖繩忌

神山 三男(中45)

百合園は色とりどりの

婦人の波

佐々木 新(中48)

稲妻に走り根きり鞍馬山

柴崎甲武信(中48)

近道は飛び石伝ひ河鹿宿

小川 洋左(高3)

暮れなずむゆかた姿や蔵の街

相田 旬(高3)

母の日や好きな花持ち

募参かな

齊藤 弘行(高3)

更衣今日もあしたも同じ顔

桃井 良之(高3)

垣に咲く紫陽花に雨強かりき

宮崎 見昭(高3)

秋ついで津波に耐へし

賢治の碑

中村夢扉夫(高11)

狭庭にも華道のこころ花柘榴

岡部つねを(高15)

秋灯下電気ブランは一の一

関口 高栄(高17)

金魚鉢卓に配され客となる

小林 幸二(高17)

縄張り水底までも

みずすまし

本阿弥秀雄(高18)

秋風にかこまれ歩く運河かな

大嶋 文昭(高20)

梅雨空の白い悲しみ

ゆでたまご

被災地のしじま蹴破れ虫騒げ

栗原忠梨風(高20)

人寄せの路上ライブや

勝浦 敏幸(高21)

秋夕焼け

栗原 由郎(高21)

店先に秋を並べて八百屋に声

市川 英一(高23)

曙光の波に向かひし目高かな

前島 敏正(高23)

蕎麦の花総倒れして紅の茎

「在校生の部」(応募543句)

(天賞) 吉橋 佳祐(1・1)

葉桜に過ぎた時間を

かみしめる

(地賞) 近藤 雅也(1・B)

朝顔にホースで描いた放物線

(人賞) 富井 翔太(1・C)

せせらぎへ源氏螢に誘われて

(特選) 東條健太郎(1・D)

海のない川越の夏蒸し暑い

溝口 将人(1・D)

かち割りを食べて応援夏の空

藤井 貴久(1・F)

夕焼けに赤く染まった参考書

(秀逸) 竹内 良輔(1・F)

川を越え男祭りだ川高だ

土屋 佑真(1・I)

秋の風くすの木祭が

連れて来る

高見 元基(1・I)

休暇明けくすの木の下

賑わえり

白石 宏太(2・G)

夕焼けに火傷しそうな

鳥一羽

★年1回の俳句大会のほか、

毎月第1土曜日の午後1時よ

り、川高図書館2階・同窓会

室で句会を開催しています。

毎回、大会選者の松本旭氏

と本阿弥秀雄氏の選句と添削

をいただいています。

川高関係者として女性も数名参加しています。こちらの参加もお待ちしております。

### 平成26年度分 終身会費納入の御礼

平成26年度の終身会費納入者は、別添のとおり499人の方々です。

御礼申し上げます。

これにより、平成22年度までの1,614人、平成23年度の2,080人、平成24年度の1,322人、平成25年度の672人を加えますと、合計6,187人となります。しかしながら、終身会費納入をお願いする対象者の30%にも達しません。

同窓会の運営は、平成23年度以降の卒業生の入会金と終身会費合わせ2万円とそれ以前の卒業生の終身会費5千円から成り立っています。

平成22年度以前の卒業生の一層の納入をお願いする次第です。

なお、今回は既に納入していただいている会員の皆様には、振込用紙は添付しておりませんので念のため申し上げます。

## 特集 各部OB会の活動

### 座談会



出席者の皆さん

案内申し上げます。私は岡部と申します。所属クラブは陸上競技部です。OB会活動のあらましをお話しさせていただきたいと存じますが、まず自己紹介をお願いいたします。

**剣道部** 剣道部OB会事務局長の小池哲志と申します。高55の卒業です。宜しくお願ひいたします。

**バドミントン部** 中村潔と申します。卒業は高32。幹事を務めております。

**山岳部** 加島篤人と申します。岩堀事務局長の代理として出席させていただきます。高34卒業です。

**柔道部** 二本松啓太です。事務局長を務めています。卒業は高27です。宜しくお願ひいたします。

**陸上競技部** 長坂です。陸上競技部の会長を務めさせていただきます。卒業は高10。皆さんよりだいたい先輩になります。今日は宜しくお願ひいたします。

**栗原** 同窓会事務局の栗原です。高20卒、陸上競技部でした。

**岡部** ありがとうございます

た。お手元にあるアンケート用紙を各OB会に送らせていただき14のOB会から返事をいただきました。早速、座談会に入らせていただきます。初めに、主な活動からお話しさせていただきたいと存じます。剣道部の小池さんからお願いいたします。

**小池** OB会の主な活動としては、毎年8月に総会・懇親会を開催しています。7月に案内状を出していますが、300名の会員がおりますが、毎年返信があるのは約1割というところで。少ないですね。今年度は高35の森田先輩が八段になられたということでお祝いを兼ね開催したところ50名に参加いただきました。

その他、毎月1回、OB・現役の定例稽古、また、毎年2月に開催する剣道六校交流稽古会(浦和、熊谷、川越、春日部、松山、不動岡)では各校のOB・現役約20名ほどが参加しています。また、地域貢献も兼ねて週1回「凌晨会」という稽古会を川越運動公園総合体育館で開いています。

現役部活動支援として、毎年10万円を贈呈しています。が、財政難で5万円に減額させていただきます。

ざるを得ない状況です。**岡部** ありがとうございます。バドミントン部はいかがですか？

**中村** 昭和52年に部に昇格した時の1〜3期生が中心となつて20年ほど前にOB会を設立しました。毎年8月上旬に大学生OBが中心ですが現役生との交流試合を開催、併せて総会を行っています。この時に練習用シャツを寄付しているほか5年毎に部活動に必要な備品(部旗、練習用のジャグボトルなど)を贈っています。

**加島** 山岳部OB会は全OBに連絡を取り、1996年11月23日に川高山岳部OB会設立総会を実施し、以降毎年新年会と2回の山行を実施しています。案内は会の行事に積極的な人に送っています。新年会の時に寄付金(2〜4万円程度)を集め、現役に寄付しています。

2009年に創部90周年を記念して記念誌「青春の彷徨」を刊行し出版記念会を開催しています。

**岡部** 柔道部はいかがですか？

**二本松** OB会の主な活動は、毎年総会と懇親会を開くこと。その際、現役部員に御馳走すること。部費で購入できないものを補助あるいは寄付することですね。その他、四校合同合宿を川越で毎年開催しています。

**長坂** うちのOB会はかなり活発な活動を行っています。総会は隔年に開催していますが、その時には現役部員を招待し御馳走するなどの交流を行っています。ここ数回は応援部にお願ひし、懇親会で演技を披露いただいております。応援部のリードで歌う応援歌・校歌は最高です。

その他年2回のゴルフコンペ、年1回の散策会、奥むさし駅伝へのOBチームの派遣と応援。その他に文武両道を見てくださるテーマとする「走・爛・観芸術祭」を隔年で行なう。また現役部活動の支援としては活動支援金(年20万円)、春夏合宿激励金(各3万円) 関東大会以上出場に激励金(3〜5万円)を提供。

また揃いのジャージやポロシャツを着て陸上競技公式戦の応援活動などを活発に行っております。今年は(26年8月)

東日本大震災以来交流のある宮城県石巻高校との合同合宿にも交通費補助として20万円を贈りました。また地域貢献活動としては、川越市陸上競

走すること。部費で購入できないものを補助あるいは寄付することですね。その他、四校合同合宿を川越で毎年開催しています。

技協会の各種イベントを多くのOBが積極的に支援しています。



陸上部OBの応援

**岡部** 皆さんOB会活動を続けていくためにはそれなりのご苦労があると思います。次に事務局の運営についてお話しさせていただきます。

**小池** 事務局では、稽古会の案内や総会・懇親会の準備を行っています。事務局に負担がかかりすぎており、平成27年度からは、連絡幹事のほかに副幹事1名、会計1名を新たに加えることになりました。これだけお楽しみになります。事務局運営にあたって一番の悩みは、会費の不足による財政難です。先ほども言いましたが案内状送付に8万円ほどかかりますが返信があるのは30名余り、財政不足です。何とか会費納入促進をと思うのですがままなりません。

あと、ちよつと運営とは違うのですが、数年前から剣道部顧問(専門家)が空白になって困りました。専門家がいないのでは部活動に大きく影響します。教育委員に善処を望みたいところです。

**中村** 事務局の主な活動は、総会ハガキ・メールの発送。総会資料の準備。日程等について部顧問と調整するといったところでしょうか。先ほどお話がありました。例えば、会費の徴収が悩みの種ですね。入会金は1000円。終身会費2000円。特別会費として総会時に社会人は3000円、学生は1000円いただきます。今年の総会出席者は20名でした。集金のチャンスが総会時のみなのでなかなか集まらないのが現状です。

**加島** 事務局の主な仕事は、新年会と年2回の山行の案内です。連絡手段は往復はがきかメール。会員名簿が更新されていなくて連絡は、行事参加に積極的な人。結果的にここ数年、同じ人にしか送れない。参加会員の高齢化により人数が減ってきていることは事実であり、若手の発掘・勧誘が課題ですね。

**二本松** 案内を出しても返信がないのが残念です。会員は約600名いますが返事が返ってくるのは約3割。そのうち入金があるのは60名ほど。財政難はうちも同じです。  
**長坂** 事務局では会員名簿・会報・ホームページの作成。その他にいろいろなイベントもありますから大変だと思えます。ホームページで競技会の開催と応援依頼などを呼びかけていますが参加者が減ってきていることも事実です。多い時には川越高校陸上競技部OB会と染め抜いた揃いのジャージが数十名スタンドにいたものですが、高齢化もありますかね。色々事務局も動いているようですが若い人がどうインクルードしていくかが課題ですね。  
**栗原** 先ほど財政難というお話がありました。陸上競技部の会費について補足させていただきます。陸上競技部OB会の設立は10年前です。設立総会には160名余りが集まりました。以来100名を超える会員が集まっていたのですが26年度の第5回総会出席者は80名と初めて100名を切ってしまいました。会費は総会時に2年分6000円を徴収しています。総会に来ら

れない方は振込をお願いしておりますが、今期は134名に会費を納めていただきました。ただイベントも多いのでこのまま行くと財政難に陥りかねません。正直、危機感でいっぱいです。

**岡部** 貴重なお話ありがとうございます。どの部もそれぞれ課題を抱えていることがよく分かりました。ただ、各部のOB会が同窓会を支える大きな柱の一つであることに間違いはありません。課題を一つ一つ克服され、OB会の運営がより活発になることを願ってやみません。同窓会事務局としてもホームページ等で皆さまの活動を積極的に取り上げ広く広報していくつもりです。皆様の積極的な情報提供をお待ちしております。座談会の内容は、出席いただけなかった各部のアンケートとともに同窓会報71号で特集させていただきます。本日はありがとうございました。

れませんが、今期は134名に会費を納めていただきました。ただイベントも多いのでこのまま行くと財政難に陥りかねません。正直、危機感でいっぱいです。

**各部活OB会アンケート結果**

**1. バドミントン部**

会名 バドミントン部OB会  
会長 菅野裕之(高30)  
会員数 405名

事務局員 7名  
年会費・会報 なし  
<http://www.geocities.jp/kawatakabad/>  
主な活動と事務局運営については座談会を参照

**2. 卓球部**  
会名 川越高校卓球部OB会  
会長 浅見忠司(高17)  
事務局・年会費、会報 無  
<http://www.geocities.jp/kawatakatt>  
《主な活動》  
開校100周年の平成10年6月、卓球部の伝統行事であった「津坂杯(OB現役の交流試合)」を継承し、OB間の交流を深めようとの目的でOB会が設立された。津坂杯は平成19年には第50回を数えた。それに伴い記念誌(70P)を発行しOB・現役部員に配布した。

・従来現役部員が行ってきた津坂杯の準備もOB会設立により、若いOBが順送り準備活動等を行っている。  
《事務局の運営》  
・津坂杯および総会の準備、運営は若いOBが順送りで行う。運営資金は、津坂杯参加費を当日集金している。  
・参加できないOBからは、

寄付を募っている。

### 3. 剣道部

会名 川越高等学校剣道部

OB会

会長 柴生田建司(高18)

会員数 300名

事務局員 1名

年会費 3000円

会報 無

http://www.m.ob52.webno

de.jp/

主な活動と事務局運営については座談会を参照



体OB会を5年に1度くらい開催。前は私(松本)が市の連盟会長だったこともあり自分の名前で案内を出していた。

現在は、部の成績が良くないためほとんど活動していない。関東大会出場の際に寄付の連絡があるくらい。5年間でそれぞれが年1度程度OB会を行っている。

・マスターズ甲子園OBチームの活動支援(支援金など)と応援。



### 5. 野球部

会名 川越高校野球部OB会

会長 斎藤 栄(高22)

会員数 610名

事務局 無 年会費 有

※会費納入の目安・学生

1000円程度、社会

人1~5年3000円

程度 社会人6~10年

4000円程度 11~15年

5000円程度 16年以上

7000円程度

会報 年2回発行

http://www.kawagoe-

masters.jindo.com

《主な活動》

・4月ほか年6回役員会 5

月総会 6月親睦ゴルフ

7月/2月 会報発行

7月 夏大会応援。入場券

の配布 11月 役員忘年会

・現役部活動の支援(支援金

など)と応援

### 6. 弓道部

弓道部OB会については、平成7年インターハイ出場の際、当時の顧問より立ち上げる形をとりましたがその後、多忙もあり現在活動はないそうです。(新津顧問より回答)

### 7. 柔道部

会名 柔道部OB会



会長 松本豊二(高19)

会員数 約600名

事務局員 3名

年会費 3000円

会報 年1回/発行

http://1st.goocities.jp/

yoshimoto

主な活動と事務局運営については座談会を参照

### 8. 応援部

会名 川越高校応援部OB会

会長 岡田 勲(高13)

会員数 約200名

事務局員 5名

年会費・会報 無

《主な活動》

・数年に1度、自発的に懇親

会を開催するにとどまっ

ている。現役からの要望に

応じて、団旗補修費、腕章購

入費用などの支援を行っ

ている。

・現在、OB会再編を進めて

おり、来年2月の総会開催

に向け活動している。

・野球部がマスター甲子園

に出場した2010年

2012年大会に甲子園で

現役当時の応援を披露した。

回答者 長野 真(高46)

### 9. サッカー部

《主な活動》

・現会長が病気になるれ、現

在活動中止状態。従来は、

1月3日の初蹴り、8月の

お盆に現役部員と交流試合

を行い、その際カンパを集

め部活動等への支援を行っ

てきた。

・2000年よりOBがチー

ムを作り、埼玉社会人リー

グに参加し、試合を通じて

OB間の交流が続いている。

・高50回生以下が任意に集ま

り、サッカーイベントを行

っているが前は100名

余りが参加した。

・現在、OB会を再開すべく、

顧問、曾根副会長らと準備

を進めている。

回答者：田口和生(高53)

### 10. 山岳部

会名 川越高等学校山岳部OB

会

会長 可児一男(高6)

会員数 300~400名

事務局員数 事務局長 岩堀

弘明(高8) 以下5名

年会費・会報 無

主な活動と事務局運営につ

ては座談会を参照

### 11. 陸上競技部

会名 埼玉県立川越高等学校

陸上競技部OB会

会長 長坂 勲(高10)

会員数 約900名

### 4. 庭球部

会名 庭球部OB会

会長 松本 寛(高12)

会員数 約550名

事務局・年会費・会報・ホ

ムページ 無

《主な活動》

・登録されている会員は

550名ほどいるが組織だ

った活動はしていない。全

事務局員 10名  
 年会費 3000円/年(学生は半額)  
 会報 あすりーと川高 1回/年  
<http://www.rikujou.k-alumni.org>

主な活動と事務局運営については座談会を参照



陸上部 OB 会総会

**12. 吹奏楽部**

現在事務局体制が機能しておらず、再構築中です。歴史の多いクラブが多い中、たった50数年ですが世代ギャップを感じており、各世代ごとの集まりは活発ですが、全体のまとめに苦慮しております。良い知恵がありましたらご指導ください。

回答者：江原 健児(高17)

**13. 排球队**

会名 川越高等学校排球队OB会

会長 田中健一(高34)  
 会員数 約500名  
 事務局員数 5名  
 年会費 3000円  
 会報 年1回発行  
<http://544.teacup.com/kawatakaVB/bss>

《主な活動》

- ・3年に1度、総会開催(26年は8月30日・80名参加)
- ・1月3日、本校体育館に集合し現役部員と交流試合、昼食会。また同日夜はOB懇親会を開催
- ・OB会費より現役部員に活動費を寄付
- ・年2回役員会開催(1月3日、7月第4土曜日)※役員会だけでなくOB懇親会を兼ねる。

《事務局の運営》

- ・OB会費はその都度参加者からの徴収と振り込みによるが徴収率は低い。
  - ・会員住所録(メルアド含む)更新が難しい。
- 回答者：副会長 中野文雄(高39)

**14. 水泳部**

会名 川越高校水泳部OB会

(愛称 初雁クラブ)

会長 佐藤 明(高20)

会員数 約800名

事務局員 花岡伸也以下8名

(事務局長、庶務、会計。会計監査)  
 年会費 2000円/年  
 会報 年1回発行  
<http://www.kawataka.com/swim.ob/>

《主な活動》

- (ア)総会・懇親会は3年に1回
- ・OB会活動報告
- ・顧問教員より現役概況報告
- ・懇親会
- (イ)川越市民体育祭水泳の部への参加と役員受託
- (ウ)OB会として日本マスターズ水泳協会への選手登録と競技会参加
- ・年3回程度、選手登録者で揃って競技会に参加
- ・OB会合同練習会・合宿の開催

(エ)現役支援

- ・年1回予算10万円程度で部員の希望するトレーニング用品を寄贈
- ・公式戦での川高新記録樹立者に対する記録証と副賞図書券(2000円)の贈呈

《事務局の運営》

- ・2〜3回/年程度の幹事会の開催(総会開催年は4〜5回/年)
- ・年間計画の策定と会報発行(原稿確定、発送)作業
- ・運営資金は幹事会会場費のみOB会から支出し、あとはボランティア

はボランティア  
 ・どの部にも共通の悩みだと思いが、若手の参加が少ない。スムーズな世代交代につながる環境作りがまずは重要と思う。  
 回答者：村山英之(高35)

**15. 美術部**

会名 川越高校OB美術展実行委員会

委員長名 大護皓夫(高14)

事務局 鹿山孝(高18)

会員数 90名

会費 美術展毎に徴収

《主な活動》

美術部OBの活動は、1986年に美術教師であった大澤寛先生の退職を機にOB展開催の機運が盛り上がり「大澤先生還暦記念」と銘打って開催したのが始まり。これまでに美術展を通算9回開催したが、名称は3回変わっている。また百周年記念美術展からは川高OBであればだれでも参加できる美術展になった。最初のころの会長は高木茂夫(高6)、事務局は木下重美(高11)が担当していた。

川高美術部OB展

第1回展 86年3月

会場 市立図書館展示室

第2回展 89年6月  
 会場 市立図書館展示室  
 第3回展 91年7月  
 会場 市立図書館展示室  
 第4回展 95年11月  
 会場 市立図書館展示室  
 川高百周年記念美術・書道展  
 99年10月5日〜11日  
 会場 ペペホール

紫縁展

第1回展 07年7月  
 会場 川越市立美術館  
 第2回展 09年7月  
 会場 川越市立美術館  
 第3回展 13年2月  
 会場 川越市立美術館  
 第4回展 14年8月  
 会場 川越市立美術館  
 回答者：鹿山孝(高18)

**16. 体操部**

体操部OBの皆さんがOB会結成のため動いています。卒業年度、卒業回、氏名、住所、電話、メールアドレスなど御連絡ください。これらは、OB会のみで使用します。  
 問い合わせは、  
[kawakotaiso@yahoo.co.jp](mailto:kawakotaiso@yahoo.co.jp)  
 野口 忠氏(高23)  
 市川敏明氏(高24)

\*平成26年度の現役部員は12名で活躍しています。

# 定時制ものがたり

定時制のクラブ活動での素晴らしい仲間達は、全国大会で輝きを放った。その活躍を振りかえろう。

## 「野球部」

### 1965年夏、神宮に燃ゆ

第十一回全国高等学校定時制軟式野球大会は八月二十三日から二十七日まで学生野球のメッカ、明治神宮球場において行われた。



明治神宮球場での川高ナイン

会に出場することとなった。二十四日待望の一回戦を迎える対戦相手は富山県代表県立新湊高校、本校は三回に一挙五点、六回二点七、八回そ

れぞれ一点をとり、最終回、敵の必死の反撃も増田投手の変則的な上手からのドロップでしとめ9対1で圧勝。

二回戦は奈良商工高校。まず本校は一回斉藤の安打を足場に主将加島の快打で一点、しかし、相手も三本の安打を集中して一点。四回から八回まで両軍〇。本校増田投手一〇個の三振を奪う好投で出塁許さず、相手もまた川内投手絶妙のコントロールで本校を抑え、緊迫した投手戦のうち九回を迎える。この回トツ

プ佐藤左前安打、小鹿野の二塁ゴロの間に二塁へ、佐藤は俊足である。一年生で唯一の選手庄川に望を託したが二塁ゴロ、佐藤は三塁へ。二死走者三塁、打者は内海、土屋監督のニッコリ笑って背中を叩かれたことにより、第二球をハッシとたたくとボールはぐんぐん延び右中間へついに抜いた。そして勝った。

翌二十六日は昨年度優勝校岡山県代表倉敷工業高校、さすが群を抜いている。本校必死にくいさがり最終回三点返すが、7対3で敗れた。一日休んでの倉敷と連日の本校で

は疲労度も違い、どうすることもできず、捲土重来を帰して神宮球場を去った。(定時制教育振興会新聞「樟の木」より)

## 「テニス部」

### 1987年、小川・二ノ宮組 全国大会で第三位に輝く

テニス部は過去何回も全国大会に出場し、とくに団体戦では本校を含む埼玉チームが全国二位という成績を収めたこともあった。

1987(昭和62)年、二年生に転入してきた小川浩次、二宮政憲がテニス部に入った。

六月、県予選では前衛小川、後衛二宮は順調に勝ち進み、決勝戦で熊谷高校と対戦し、この試合が始まると多くの生徒から「これが本当のテニスだよ」という声があがった。二人は全国大会のメンバーとして有明テニスの森公園での大会に臨んだ。

二回戦から登場し、青森工業高校に4-2で、三回戦はシード校の愛媛北宇和高日吉分校に4-1、四回戦は四日市工高を4-1、五回戦は天理高を4-2と下し、六回戦は沖縄工業を相手に4-3と

接戦の末ファイナルゲームを勝ち取った。小川、二宮は試合が終わるとすぐ座り込んでしまい、この試合でスタミナをすっかり使い切ったようだった。

回が進むにつれ休憩時間が少なくなり、準決勝は六回戦後すぐに行われた。愛知の岡崎工高と対戦し、2-4で敗れた。相手の監督は「うちは十分休養がとれていたが、川高さんは休憩時間がなく、実力では小川、二宮君のほうが上でした。」と言っていた。

(顧問・仲田勝己)



3位入賞の小川・二宮組

## 「バスケット部」

### 1994年、汗と涙で 勝ちとった全国ベスト16!

はじめは授業だけの活動であったが、一つの大会をきっかけにして変わった。全国バスケットボール大会県予選会のことであった。

一回戦は大宮中央高校に対し勝利を収めた。しかし、二回戦は三年連続で全国出場を果たしている川越工業高校とあたりダブルスコアの差をつけられ負けた。何日か過ぎて一人の生徒から「全国大会に出場したいから練習をみてほしい」と言われ、「練習参加者が一人も来ないという日があつたら、その時点で以降の指導はいっさいしない。そのかわり必ず全国大会に連れて行くからみんなの意志を確認してほしい」という条件のもとで、放課後の練習がスタートした。

学校が休みするとき以外は毎日夜九時から一時間程度、そして夏休みはボールを持たせず、基礎トレーニングを中心とした練習に二時間かけていたせいか、部員の体重は休みが終わると同時に四、五kgも減っていた。全国大会出場という目標に向け、練習は毎日行われ、欠席するものもなく一年が経った。

一九九四(平成六)年五月、県予選がスタートした。一回戦浦和高校に45-7で快勝、二回戦は昨年二位の豊岡高校に47-45で競り勝ち、三回戦は大宮中央高校(単定)に34-16、四回戦は大宮中央(通

信)高校に59-38、続く五回戦は松山高校に75-43でついに優勝を勝ちとつた。  
 全国大会は八月、埼玉県代表が前年度優勝したので二回戦からの出場となった。



全国大会出場のメンバー

最初の相手は、全国大会島根県松江工業高校で前半17-19で負けていたが、後半自分のペースをつかみ、52-40で初戦をものにした。三回戦は毎年全国出場果たしている青森県八戸中央高校と対戦、この試合、キャプテンが捻挫したが、前半から28-30という白熱したゲーム展開となり、後半残り時間一分のところで同点まで追いつけたが惜しくも50-54、二ゴール差で涙をのんだ。そしてこの対戦相手が全国大会の優勝校となった。

一つのことこにこだわり、彼らと過ごした時間は有意義であった。「為せば成る」という諺を身をもって体験できた。  
 (元顧問 峰行正美)  
 (以上、百周記念誌「くすの木」より抜粋)

**2007年**  
**バレー部 女子全国大会出場**  
**「全国大会出場まで」**

有馬彌生(定59)

私達の代は部員の半分以上はバレーボール未経験でした。その私達が全国大会の舞台に立つまでには様々な出来事がありました。仕事を終え、学校で勉強するだけでも色々な悩みや不安を抱えて定時制を選んだ私達には大変な仕事だったように思います。

授業を終えた時間から部活動の時間になるのですが、なかなか部員が集まらず活動が出来ない時期もありました。

そんな中、なんとか出場した県大会も楽しむ余裕もありません。でも苦しい出になってしまいました。そこから先生と先輩達とは話し合い、集中して基礎練習をするようになりました。辛だけの練習にならないように、ゲーム感覚で出来るパス練習など様々な練習を取り入れていきました。後輩も入り、チームらしくなっていくきましたが、なかなか大会で思うような結果を出す事が出来ないうでいました。

そんな中、先輩も卒業していき、バレーボール初心者だった私がキャプテンになり、これからどうして行こうかととても悩みました。

そんな中、大会間近でエースが部活動を辞めていくなど様々な事が起こりましたが、同期はじめ卒業した先輩方や顧問の先生、後輩達にまで支えられて、大きな出来事を乗り越えたからこそ、私はキャプテンという立場で活動することが出来ました。

新しいエースを中心に、勝つ事も大切ですがみんながバレーボールを楽しもうという事を前提に限られた時間で、男子チームと練習させてもらったり、時には個々で基礎練習の時間を増やしたり様々な事をしていき、今まで勝てなかったチームに勝ち、県大会優勝という結果になった時は本当にこのチームで勝って良かったと思えました。

高校生最後の年に全国大会出場という所まで行くことが出来て、入部した時のことを考

えると夢のようでした。結果は、緊張もあり自分達が楽しめるバレーが出来ないまま一回戦敗退で、他校とのレベルの差を感じ悔しさで大泣きした事を覚えて、います。今まで同期ともっとコートにいたかったとか後輩にはもっとコートに立たせてあげたかったとか、顧問には一勝でもした所を観せたかったかと思いますが、全国大会に出場した事は、部員一人一人の好い岐路になっているのではないかと思います。

私は現在、イベント関係の仕事でチームの立場を任せられる事もあります。バレー部でキャプテンをやった事が今になっても活かされているのだなと感じています。

この他、輝くばかりに全国大会で活躍したクラブをあげると次のとおりである。



全国大会出場のメンバー

1985年  
 ・柔道部 全国大会出場  
 ・庭球部 全国大会出場  
 1986年  
 ・柔道部 全国大会ベスト8  
 ・卓球部 全国大会 団体、個人出場  
 1989年  
 ・庭球部 全国大会出場  
 1990年  
 ・陸上部 全国大会出場  
 ・卓球部 全国大会出場  
 1990年  
 ・陸上部 全国大会  
 坂口が五千メートル入賞  
 1991年  
 ・柔道部 全国大会埼玉優勝  
 のメンバーで森田が活躍  
 1993年  
 ・剣道部 再発足一年目で  
 全国大会出場  
 1994年  
 ・籠球部 全国大会出場、  
 三回戦進出  
 2007年  
 ・サッカー部 全国大会出場



全国大会出場のメンバー

投稿

七十年前の初雁健児

玉之内 淳(高2)記

昭和十九年(一九四四年)四月七日の入学式で、晴れて憧れの川中生誕生...と喜びの末の間、三日後には五泊六日の合宿訓練。場所は御殿場西方三軒の富士山麓にある「楽山荘」。



川越高校2期の会

合宿の目的は軍国主義を鼓吹し、国の為に滅私奉公を誓える少年の育成。訓練指導者

は配属将校の海北陸軍中尉他三名の陸軍教官と学年担任教師である。

敬礼、ゲートル巻き、行進、軍歌を合唱し乍らの行軍等の連続。「不動の姿勢は教練基本の姿勢なり。故に精神内に充実し、外厳肅端正ならざるべからず」...こうして白線帽の似合う初雁健児の一步前進となった。

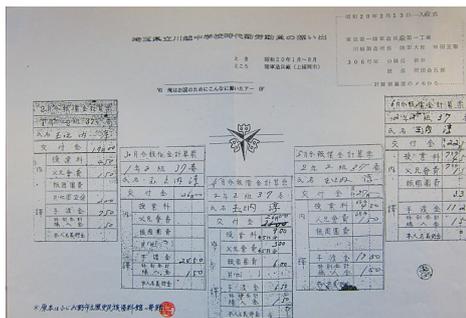
疲労と空腹の合宿。「楽山荘、苦山荘ではないけれど、飯のないのに参り候」は、毎年行われている同期会で今もって想い出話の原点となっている。

さて、昭和二十年(一九四五年)ともなると戦火愈々激しく、上級生は勤労働員で工場への「通学」となり、学校はその姿が見られなくなった。二月十三日―遂に我々一年生二百数十名にもその機到来!。東京第一陸軍造兵廠第一川越製造所が「勉強」の場。現ふじみ野市役所一帯の、いわゆる上福岡の火工廠だ。

その三〇六号家の木造作業棟が「教室」となり、木製台機の周囲に数名が固い木製椅子に腰かける。一日中、エボナイトの兵器部品(?)を型に合うように鉄ヤスリで研磨作業を行う。

前年には先輩が一人火薬爆破で命を落し、更にもう一人が左手首損失という事故発生。一年生は割合安全な作業を与えられ、黙々と必勝を期して作業することが「勉強」である。

胸当てをして危険作業に従事した仲間もいたが、ともあれこの「勉強」の二月分の報酬は十七円(初めての給料)。その中から授業料四円五十銭也が差し引かれ、手渡金は七円五十銭:現金にお目にかかれることは無く、貯金された。終戦までの報酬金合計は一一八円。現在の金額に換算のすべもないが...



報償金計算票

金額の多寡はさておき、明日の命も定かならぬ緊張の中で育まれた友情や、教科書が無い「学習」から得た「学力」は確かに生きる力の源となっ

たのかも知れない。同期生の中から十三名の東大生が輩出されたのも、まさに宜なるかなである。

「中島歌子を顕彰する会」について

中島 孝光(高10)記

それは平成16年11月、5千円紙幣の肖像画が新渡戸稲造から樋口一葉に変わったときから始まりました。

中島常吉氏(会長)が、我が家を訪れ、「中島歌子は、坂戸市森戸生まれであると言われていたが、その証拠を探して欲しい」と言うことでした。書庫のなかから歌子からの書簡らしきもの三通を探し出し、会長経由で埼玉県郷土史会会長の大圖口承氏に鑑定・解説を依頼しました。

平成17年の春、それは間違いない歌子の直筆で兄孝三郎に宛てた書簡であることが判明し、新聞各紙に発表されました。

その後、樋口一葉を育てたのは中島歌子であり、彼女を顕彰しようではないかと「中

島歌子を顕彰する会」が平成19年5月、会員80名をもって坂戸市大家公民館において結成されました。

以来、顕彰事業として、歌子研究の第一人者である大圖口承氏を講師の筆頭に多くの講演会を開催したり、歌子の随筆『枕のちり』を基にドキュメンタリータッチの短編映像を作成、「彩の国映像コンテスト」で大賞を受賞した会員川田猛夫氏作品『中島歌子 梓弓の詩』の上映会や、埼玉県文化振興基金助成事業で新内・朗読共演『一葉の師中島歌子の想い』の上演会を開催したりしました。

この間、都内文京区の一葉記念館、萩の舎の跡、牛天神などを見学し、文京区教育委員会に対する歌子の出生地の訂正の要請、坂戸市教育委員会に歌子が兄孝三郎に宛てた書簡三点の文化財指定を要請し、実現してきました。

平成26年1月には講談社発行『恋歌』(浅井まかて著)が直木賞を受賞したことを受け、会で発行を予定していた小冊子『一葉を育てた中島歌子の生涯』の編集作業に一層の力が傾注され、平成26年3月に発行の運びとなりました。



副読本

これは地元小中学生の社会科の副読本としても使用することも視野に入れて易しく編集されています。

尚、本書の編集委員の中に当会副会長の中島喜三郎氏(高3)、役員の須田富雄氏(高18)も含まれています。かくいう私は歌子の生家と言うだけで顕彰する会の末席に名前を連ねていることに忸怩たるものがあります。

「日・米・独 川越オオカミシンポジウム2015」

復活と保護

岩堀 弘明 (高8) 記

太古から日本人は森を大切に、森と共生してきました。森の文化を守ってきた日本は、現在国土の68%が森林であり、世界でも有数の森林大国です。

日本の森は「人工林の拡大時代」を終えて「多様な森を慈しみ、さまざまに活用する時代」を迎えています。

平成28年からは、毎年8月11日が「山の日」として指定されます。「森林を含む山」を活用する時代になりましたが、今の日本ではその手立てを確立できていません。その間にシカ、サル、クマなどの野獣が無制限に繁殖し、森を荒廃させています。

下草や灌木がシカに喰われて裸地化した各地の森林は、異常気象による長雨も加わって、土壌の流失、それによる斜面崩壊を起こす原因にもなっています。

最近「森のいきもの」による里の被害が甚大になってきました。

「川高初雁の森」も周囲にネットを張り巡らせているにも拘わらず、植樹した苗木を鹿に喰われ、桜の成木などは特別に防護網を被せている状況です。

頂点捕食者を欠く野獣は増えず、食物が不足し、やむを得ず森から里へ降りてきています。かつては自然の調整作用によって、増えすぎを抑制されていた彼らですが、頂点捕食者オオカミを欠く現在の日本の山々では、野獣の増殖は際限がありません。とりわけ深刻なのは、増え続けるシカによる被害です。



シカの被害

一昨年まで日本列島に生息していたシカは200万頭といわれていましたが、このまま放置すれば今後十年余で500万頭になると環境省は発表しています。

江戸時代まで日本の山林は、オオカミを頂点捕食者として森の秩序が保たれていました。

オオカミは明治政府の政策により絶滅しましたが、世界を見ると森林生態系と生物多様性の保護を目的にして、EU29カ国をはじめ、アメリカ、インド、中国もオオカミ保護国になっています。

昨年協会が視察したドイツ東部のリーチェン町ラルフ・ブレーマー町長は「昔から生息していた動物ですから、オオカミと人が共存することに賛成です。彼らが増え過ぎる心配ありません。彼らは人間

を怖れていますし、人間が正しく対応するならば危険ではありません」と言い切っています。



ニホンオオカミ

鳥獣保護法の改正に伴い、シカ、イノシシの個体数を半減する目標が設定されたものの、人為的な狩猟圧を主とした管理政策のみでは、早くも実現が危ぶまれています。

先進・先行事例とされるアメリカ・ドイツの取組を学び、我が国の歩むべき方策について議論を深める場として「日・米・独オオカミシンポジウム2015」復活と保護を開催することになりました。今や国民的合意に向けた広報活動をすることは喫緊の課題といえます。

同窓会諸兄の積極的なご支援をお願いいたします。

日時 2015年6月8日(月) 午後6時より

場所 ウェスタ川越 多目的ホール

入場無料

招聘講師 ○デイビッド・ミッチ(米) 学術博士、オオカミの生態保護の世界的権威、米国地理学研究所上席研究員、国際自然保護連合オオカミ専門家会議議長、ミネソタ大学生物学科講師、インターナショナルウルフセンター理事

北極オオカミの生態などBBCの映像番組で日本人にもおなじみ

○マーチス・バーテン(独) ドイツ自然・生物多様性保護連合(NABU)政策担当理事

オオカミ保護管理に関する調査研究、普及活動に専念

「紫縁展」と大澤先生 尾崎 勝美(高11) 記

「紫縁展」は県立川越高校OBによる美術展である。2014年は4回目になるが、このスタートは2007年からだ。それ以前は「川越高校美術部OB展」の名で数回開催の記録がある。

そもそもOB展開催の発端は、わたし達の恩師である大澤寛先生が、川越高校を退職されたとき(1985年)かつての生徒たちが相談して開



第4回紫縁展に集うOB達

展は2009年7月に川越市立美術館市民ギャラリーで36人の参加で開催。第三回展は2013年2月に同じ会場で36人が参加。今回は一年余を経ての開催となる。

2009年までは高校11回卒の木下重美君が中心になって運営に当たってきたが、前回からは同14回卒の大護皓夫君を中心に多彩なメンバーで運営されている。

参加者の立場は各人各様だが、美術好きという共通点で交流を深めているのが「紫縁展」のいいところだ。  
(第4回紫縁展写真集より)

### 「小林超道書展開催」

書家・曹洞宗僧侶

小林 道夫(高5) 記

### 「む」の風景

東京銀座 鳩居堂画廊

2015年

12月1日〜6日

前回の『ん』展(1987・鳩居堂画廊)から、出家の身であることもあって隠居を決め込んでいましたが、周りの薦めもあって、重い腰をあげることにしました。数年間書き留めた「む」を20点程展覧します。同時に書論も開示し

ます。

作品というのは、人間全体でなくてはならないと思っています。ですから、不調時の「陰」のときも書き留めて、「格好の悪さ」も表出しました。

ご覧いただいで、共感していただいたり、叱咤いただきたいと思つてます。

### 「石川 信雄(中24)の評伝」

滄短歌会・くすのき短歌の会

石川信雄研究家

忍足ユミ氏

『評伝石川信雄』

— 悲運の利器 —

入間市出身の近代ローマン派、現代短歌の兄と評される歌人、石川信雄氏について、滄短歌会発行の「滄」第73号(2012年5月)より、短歌への志を高くかかげ続けた悲運の歌人として掘り起している。

歌人石川は、一時は日本有数の製糸会社であった「石川組製糸会社」関係一族の異才であったが、知る人は関係者のみであったことを惜しみ、歌人としての才能についての評伝を書き継いでいる。この中で、大岡信氏が、かつて連

載した朝日新聞「折々のうた」から

天国のペンキ屋バケツに

蹴まづきニッポンの

野山のさめる秋

「太白光」

を紹介し、「昭和戦前にはモダニズム短歌の有力な作者だったが、戦中中国大陸に兵役または報道記者として6年、復員後は実力に比して不遇だった」とその才能の不遇を惜しんだことを引用している。  
(編集者注) 忍足ユミ氏

入間市に40年住み、遇々短歌を志して信雄の存在を知ったことから、市内の歌人が誰も手をつけないなら、自分が評伝を書いてみたいと思うようになった、ということから始まりました。



短歌誌「滄」

### 第11回尾崎行雄(号堂)杯

演説大会で

準グランプリ受賞

飯倉 一樹(高63) 記

私は、明治大学雄辯部の現

役生のときの2013年11月24日(日)、相模原市で開かれた大会で、「顔の見える選挙」届けたい私の思い、私の熱意」と題して、予選を勝ち抜いた6名の中から準グランプリに選ばれました。なお、グランプリは該当なしでした。



演説大会にて

このなかで私は「顔の見える選挙」のためには「戸別訪問の解禁」を訴えました。これは、

- 1 候補者は有権者と対話できる機会が増加する
- 2 有権者は候補者をよりよく知ることができる

の2点のメリットがあることです。

人の思い、人の熱意、人の言葉が相手のところを動かす、やがて社会も変えてゆく。戸別訪問こそ顔の見える選挙である。6分間の演説でした。

母校だより(一)

人事異動

「退職」

校長 細田 宏  
教諭 佐藤けい子  
蕨高校(再任用)

橋本良郎  
船橋博俊  
川越高校(再任用)

川越高校(再任用)

松本典子  
富士見高校(再任用)

横山好司  
川越高校(再任用)

吉田 寛

高橋健二  
狭山清陵高校校長

嶋田義雄  
坂戸ろう学校事務長

石川正悟  
上尾鷹の台高校

小林邦佳  
鳩山高校

主任実習助手 板根陽子  
ふじみ野高校

中條 淳  
和光特別支援高校

栗原由郎 新座高校

須田善俊

山家基秀

小堺理恵

寫田矩晃 松山高校

辰巳 豊 朝霞高校

主事 赤松昌幸  
非常勤講師  
新井秀実 北本高校  
関澤依里香  
永井聰平  
松本登志雄 鴻巣高校

「転入」  
校長 青木勇藤  
県立学校部副部長  
教頭 高橋泰綱 日高高校  
担当部長 小野圭弘  
県立近代美術館

教諭 國弘雅也  
伊奈学園総合高校

近藤 勉  
新座柳瀬高校

池田英人 八潮高校

柴村英敬 三郷北高校

佐瀬正伸 浦和東高校

山本隆浩

主任 小澤大輔 豊岡高校

「新採用」  
教諭 吉澤 悟

明戸直紀

実習助手 柿澤香織

臨時任用 上里竜司  
市立川越高校

廣瀬一平

主事 平子海太 桶川西中学

非常勤講師 渡邊 彰

渡邊 慧一

「再採用」  
教諭 岩村まどか 小川高校

退職のご挨拶

船橋 博俊(高25)

2001年度から2014年度まで14年間、川高に勤務し3月をもって定年退職いたしました。

着任後は教科指導・学年経営・部活指導(野球部)・生徒指導等に力を注いで参りました。しかし川高にも慣れ軌道に乗り始めた3年目後半に思ってもよらぬ病に倒れ、一時は教師を辞める覚悟を持ちながら当時の校長に相談したこともありましたが、当時迷惑を掛けました生徒達、助けていただいた同僚諸氏、野球部OB会の方々には感謝するばかりです。14年間で川高は大きく変化しました。理科棟の立て直し、70分授業の導入、再度50分授業へ、隔週の土曜開始、定時制の廃止、SSHスタート、2期目のSSH、その他多くのことが変わっていきました。赴任当時の川高は、教師は必要以上に生徒の面倒を見ない、生徒は極力教師を頼らないという雰囲気があり、現在よりももう少し「自主・自立」の精神が生かされていたように感じます。川高が地域社会から評価され続けるためには、社会の変容に合わせて進化し



ていく必要があります。しかし、良き伝統として残されなくてはならないものもあるはず。発信される数字や文字のみにとらわれることなく、生徒の心が強く育ち、育てて欲しいと願います。

14年間で9年間学年主任を務めました。一度くらいは担任を持ちたかったという思いはありましたが、僅かでも川高の役に建てたのではと自負しています。

退職のときに

横山 好司(高25)

6年前の春、私は一番街方面から期待と少しばかりの不安を抱きながら川越高校に向う坂道で止まりました。

ここには二つの小学校があり、当時の恩師荒井桂先生に「川女、川女と騒ぐが、君達のお嫁さんはここにいます」と言われたことを思い出す。

ここから母校が見えてくる。

くすの木が聳え立ち、寄り添うように建つ図書館棟が目新しく美しい。理科棟の屋根は、藏造りを意識したものなのだろうか、なかなか洒落た校舎だ。私は、この坂道から見る川越高校が好きだ。



教諭として6年間過ごした。あつという間の6年間だった。赴任する前は、川高で一体全体自分が出来るのか、そんなことも脳裏をかすめた。しかし、やるべきことは目の前に厳然とあった。自然と前に進んだ。今までに蓄えて来たこと、そして、40数年前この川高時代で培ったもの、それら自分の持てるだけの力を生徒達に、そして学校に素直にぶつけていけばよいのだ。今後の川高のことを思い発言もしてきた。自分としては良いものを残せたと自負している。しかし、何と云っても私の宝は素晴らしい生徒に恵まれたことだ。2年前に卒業した連中が初春に退職の祝いしようと言ってくれた。万感の思いである。

東日本大震災の体験と音楽による復興支援の試み

脳神経外科医の軌跡

高橋 明(高23)



文化講演会から  
2014.12.17

本年度は、現東北大学医学  
部研究科・医学系研究科教授  
高橋 明氏にご講演いただき  
ました。

■脳神経外科医として

氏は本校卒業後東北大学医  
学部に進み、その後医師とし  
て、開頭せずに脳内の動脈瘤  
を治療するコイル塞栓術(大  
腿部からカテーテルを通して、  
プラチナ製のコイルを詰めて  
動脈瘤を閉塞する血管内手  
術)という治療法を専門と  
し、30年近くその開発と普及  
活動に努めています。この方  
法は患者さんの体への負担の  
軽い、優れた治療法です。

■チェロ演奏

56〜57歳になった頃、自分  
の「死」を意識するようにな  
り、死ぬまでに後悔しないよ  
うに生きたいと思うようにな  
ります。高校時代は吹奏楽部  
でユーフォニアムを担当して

いました。その後楽器演奏か  
ら遠ざかっていましたが、音  
楽を演奏したいという思いを  
抱き続けていたこともあり、  
一念発起してチェロを習い始  
めます。講演当日は、最後に  
バッハの無伴奏チェロ組曲を  
演奏して下さいました。

■東日本大震災

2011年3月11日、仙台  
で東日本大震災に遭いまし  
た。生まれて初めての生命の  
危険を感じるほどの揺れを感  
じ、その後事実上の避難所と  
なった場所で、携帯のワンセ  
グテレビを通して、非現実的  
としか思えない津波の映像を  
ただ呆然と眺めるばかりでし  
た。未曾有の災害でライフラ  
インも寸断されている中、数  
日後には女川、石巻に向い  
てご遺体を検察し、身元判定  
のためのDNA鑑定に必要な  
血液採取などに携わりまし  
た。石巻の旧青果市場に続々  
と運ばれてくる500体を超  
えるご遺体を目の当たりにし  
て、無力感と自責の念に駆ら  
れました。今回の震災には、  
地震・津波・原発事故・風評

被害、全て人災の要素があり  
ます。津波対策の必要性が警  
告されていながらその教訓を  
生かせなかったこと、また福  
島の原発事故に対する後手後  
手の対応を見るにつけ、「こ  
の国は終わった」と心底思い  
ました。

■音楽の力

そのような無力感と絶望の  
中、救いとなったのは音楽で  
した。自らも避難所でチェロ  
を演奏しましたが、震災で演  
奏する場所を失った仙台フィ  
ルのメンバーによるボランテ  
アの復興コンサートに一ヶ  
月近く通っていくうちに、演  
奏する側も聴く側も変化して  
くることを肌で感じ、音楽が  
言葉では表すことのできない  
双方向のコミュニケーション  
を可能にし、また、演奏する  
側、聴く側、会場の空気が相  
まって音楽を作り上げるとい  
うことを実感しました。

ある避難所で、ラジオから  
安否情報ばかりが流れる中、  
突然「アンパンマン・マーチ」  
が流れ出したことがありまし  
た。すると、それまで現実を  
受け止められないまま無理し  
て笑顔で作業していた人たち  
がみんな泣き出しました。音  
楽が、被災した人たちが心の  
中にため込んでいたものを吐

露することを可能にしたので  
す。音楽を被災地で演奏して  
ほしい。それが被災した人た  
ちの願いでした。

そこで、東北大学医学部の  
同窓会の名前である「良陵」  
の名を取り、「良陵共に歩み  
隊」(愛称「ゴントモ」)を組織し、  
被災地内外で大小あわせて50  
回以上のイベントを開き、数  
名のアンサンブルによるボ  
ランティア演奏を行ってきま  
した。それと同時に、国際チ  
エロアンサンブル協会共催の  
「1000人のチェロ・コン  
サート」の活動で、2011  
年11月から東北キャラバンと  
称して、20名程度のチェロだ  
けのアンサンブルで、岩手、  
宮城、福島の被災地域を巡る  
イベントを六回開催してきま  
した。これからもこうした演  
奏活動を続けていきます。

■復興に本当に必要なこと

東日本大震災から三年半経  
ちましたが、まだまだ復興は  
進んでいません。現在、岩手  
県の久慈から福島県のいわき  
まで、350kmに渡る防潮堤  
を作り、地盤のかさ上げをす  
る大規模な工事が行われてい  
ますが、このために被災地の  
復興が妨げられているという  
のが実感です。自然の力には、  
人間は到底かないません。大

規模な土木工事で戦うより、  
自然と共存共栄を図り、減災  
のために避難経路の確保等を  
確実に行っていく方が大切だ  
と感じています。また、今後  
起こるであろう東南海地震に  
ついては特に、これが起こる  
ということを前提に過ごして  
いかなければいけません。

■被災した一人として

被災してのちのころに  
くらぶれば昔はものを  
おもはざりけり

これは百人一首四三番、権  
中納言敦忠の歌の本歌取りの  
歌ですが、これが私の実感で  
あり、私の被災した経験を語  
るのが自分の義務だと感じて  
います。その中で一番伝えた  
ことは、「当事者意識」とい  
うことです。自分が経験した  
ことのないことに対して、  
被災された「当事者」がどう  
考えているか、想像していた  
だきたいのです。震災から時  
間が経つにつれ、既に震災体  
験の風化が叫ばれるようにな  
りましたが、まだまだ復興、  
再興までには長い道のりが続  
き、沢山のエネルギーが必要  
ですこれからも自分のできる  
ことでその過程に関わり続け  
ていきたいと思っています。

(文責 水村 英明 高31)

川越高校 スーパーサイエンス ハイスクール

SSH企画部 阿部 宏

今年度の成果 全国大会 銅賞

全国物理コンテスト「物理チャレンジ2014」で、3年生の新井峻太君(物理部)が予選参加者1,762名から全国大会100名に選ばれ、全国30位以内の銅賞を受賞しました。全国大会は8月に岡山大学で三泊四日で行われました。5時間の理論問題と五時間の実験コンテストで物理の能力を見極めるというハードなコンテストです。

全国上位優秀賞

「日本生物学オリンピック2014」

2年生の小島一優君(ハワイ島実習生・生物部)が全国3,265名中上位5%の成績を修め優秀賞を受賞しました。



新井 峻太君 小島 一優君

ポスター賞

全国204校のSSH指定校がパシフィコ横浜国立大ホールに集結、8月6日、7日の二日に渡り研究成果を披露しました。

地学部は上位20%以内の成績でポスター賞を受賞しました。

研究テーマは「銀河系はどこちら回りか?中性水素21cmの観測」です。自作の電波望遠鏡で地球から見た天の川銀河の水素ガスの回転を測定し、銀河の運動を突き止めます。



加山新君 阿部雄一君 金網宏樹君 菊池駿太君 早川和志君 西田良輔君

全国大会出場

2015年3月に行われた、第七回日本地学オリンピック



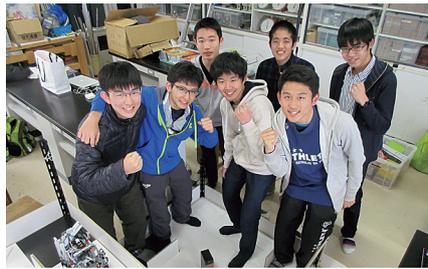
本澤 正隆君

ック全国大会に、2年生本澤正隆君(ハワイ島実習生・地学部)が出場、3月現在結果待ちです。

全国大会出場

2015年3月末に行われる、ロボカップジュニア・ジャパンオープン2015尼崎大会に、物理部1年生7名が出場します。

レスキューBという、自律型ロボットで模擬災害救助を行う種目です。10月の予選、11月の埼玉県大会で所定の成績を修め、二泊三日で行われる全国大会に出場が決定しました。

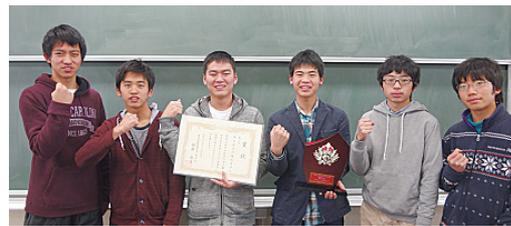


鈴木晴万君 木村銀河君 井上智裕君 中島郁夢君 太田佳佑君 鈴木絃太君 根本峻君

県大会準優勝

11月に行われた科学の甲子園全国大会埼玉県予選で、2年生の小島一優君をリーダーとする本校チームは、参加した42チーム中2位の成果を上げました。

大会は一チーム6名によるチーム戦で、理科、数学、情報の筆記競技からなる一次予選と理科三分野の実験競技からなる二次予選があります。



井上隆君 貞家遼平君 島野翔平君 小島一優君 鈴木悠馬君 本澤正隆君

ハワイ島実習

8月後半、1年生8名の選抜チームによる五泊六日のハワイ島フィールドワーク・海外研修を実施しました。内容は「宇宙誕生」として、国立天文台すばる望遠鏡山麓施設で、すばるの研究者を相手に、生徒がすばる望遠鏡についてプレゼンテーションを行うワークショップと、標高4,200メートルのマウナケア山4,000メートルの地点での天体観測。

「地球誕生」、「生命誕生」をテーマに、ハワイ大学火山学者および生物学者による、

キラウエア火山溶岩台地での、それぞれ丸一日かけての英語でのフィールドワークです。理科、英語科、社会科、国語科による約150時間の事前学習を行い、全員がハワイで行う研究テーマを自主的に決め実習しました。帰国後は半年間テーマ研究を行い、科学展覧会等で発表し、2月の本校SSH生徒研究発表会では、英語によるプレゼンテーションを行いました。

今年の成果をはじめ、9年間のSSH指定期間中の世界、全国の科学コンテスト等での成果の多くにハワイ島実習生が含まれていることから、この実習が極めて効果の高いで事業あることが分かります。



毎年のSSH事業への同窓会の多大なるご支援に深く御礼申し上げます。今後ともよろしく願いたします。

2015年度 大学等入試合格状況一覧

母校だより(四)

国立 大学略称名 現合格 役入学 過年度卒合格 入学

公立 大学略称名 現合格 役入学 過年度卒合格 入学

私立 大学略称名 現合格 役入学 過年度卒合格 入学

私立 大学略称名 現合格 役入学 過年度卒合格 入学

大学校・短期大学 大学略称名 現合格 役入学 過年度卒合格 入学

部活動の主な成績

- 新聞部 第18回全国高等学校新聞紙面審査 優良賞
物理部 第10回全国物理コンテスト 出場 銅賞
古典ギター部 JGA全国高校ギター合奏 コンクール出場 金賞
美術部 全国高校総合文化祭出展
将棋部 全国高校王将戦出場
スケート部 全国総合高校体育大会
弓道部 埼玉県下武道大会
柔道部 県高校総合体育大会個人戦

# 事務局より

## ◆叙勲受章者

- 平成26年・秋
- 旭日双光章
- 持木 昭男氏 (高8)
- 地方自治功労
- 元・鶴ヶ島市議会議員

## 藍綬褒章

- 三上 邦弘氏 (高14)
- 防犯功績
- 現 川越地区事業所防犯
- 連絡協議会会長

- 瀬川 豊氏 (高21)
- 保健衛生功績
- 現 比企医師会会長

## ◆図書等寄贈紹介

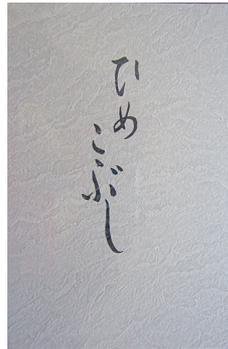
- 内田紀成氏 (高2) より
- 内田静馬氏 (中22) 版画
- 「三芳野神社」



- 小林洋左氏 (高3)
- 「ふたりはひとり その後」



- 橋本壮二氏 (高8)
- 「句集 ひめこころし」



- 神山健吉氏 (中47・高1)
- 「埼玉の地名」



- 中島孝充氏 (高10)
- 「二葉を育てた
- 中島歌子の生涯」



- 大河原義重氏 (高14)
- 「高麗郡」から発信



- 野口 勲氏 (高15)
- 「タネが危ない」



- 野口氏は雑誌で『致知』
- (2014年7月号) の中で
- も「タネが危ない」と題して、
- 内閣総理
- 大臣夫人
- 安倍昭恵
- 氏と対談
- しています。



- 「いのちの種を未来に」



- 「固定種野菜の種と育て方」



- 理崎 敬氏 (清水健一・高19)
- 「烈日の譜
- 楨村浩と思想弾圧」



- 高橋守氏 (高20・元川高教師
- 師) より元川高教師 富樫
- 裕氏の著作
- 「資料で綴る日本生物学史」
- 「中等生物系科目における
- 主要な教材・教具の変遷」



- 奥泉 光氏 (奥泉康弘・高26)
- 「東京自叙伝
- 第50回谷崎潤一郎賞受賞



- 神山典士氏 (高31)
- 第45回大宅壮一ノンフィ
- クション賞受賞 (平成26
- 年)「全聾の作曲家はペ
- テン師だった」(週刊文春
- 2014年2月13日号)
- 「ペテン師と天才」



- 「忌野清志郎が聴こえる
- 愛しあつてるかい」



# ◆総会のご案内

**日時** 5月24日(日) 午前9時半より受付

会則では5月の最終日曜日となっていますが、事情により前週に繰上げます。

**会場** 川越氷川会館(氷川神社内) 電話049(222)8417

- ・総会 10時～ 桂の間
- ・記念講演 11時～12時 桂の間
- ・懇親会 12時～14時15分 鳳凰の間
- ・懇親会費 7000円

### ◆記念講演

**講師** 根岸秋男氏(高29) 現・明治安田生命保険相互会社 社長  
早稲田大学理工学部卒

**演題** 『わたしと生命保険～動けば明日が見えてくる』

**◆植樹料の報告**  
平成26年度は549人、258万7000円でした。平成24年度から募集を始めて、1,504人、総額1,011万1,428円となり



・**沖方丁氏(藤野峰男・高47)**  
第3回山田風太郎賞受賞  
「光圀伝」



「幕末維新消された歴史」



・**安藤優一郎氏(高35)**  
歴史家、文学博士  
吉田松陰「留魂録」

対処方法として、録音機能付き留守番電話への切替え、



「自分だけは大丈夫」と思っている人ほど被害者となっているようです。

求が増えています。

最近では、高齢者には税金などの還付金詐欺、架空請求詐欺、高齢者施設の債権購入の誘いなどと手口が多様化してきています。また、勝手に送りつける動画サイトの料金請求が増えています。

本校関係者には接触することが多く、被害者となった方も出ています。

川越警察署管内において把握しているだけで62件、1億4500万円に達し、ここ数年毎年1億円を越えています。

**振り込め詐欺が巧妙な形で横行しています。**

ました。第一期の事業は5カ年を予定しております。引き続きあと2ヶ年募集いたします。よろしく願います。

留守電機能もあります。

同窓会事務局の連絡は専用電話及びFAXにてお願いします。

電話&FAX  
049-2225-9071  
月曜日～金曜日、  
午前9時～午後5時。  
留守電機能もあります。

利です。

alumni@h.p.jp

なお、平成23年以前のホームページはこの新HPと本校HPとにそれぞれリンクしてありますので検索できます。また、ご意見、ご要望もお願いします。

「お問い合わせ」「伝言板」もセキュリティが保たれていますので、住所変更の連絡、同期会の呼びかけなどに活用できます。

<http://alumni.gnk.cc/kawagoe/>

**同窓会ホームページを活用して下さい。**

昔からの電話帳での電話番号確認が有効です。また、不審なメールは開かないことです。

水村英明(31) 望月 勝(41)

本紙編集委員は次の通り  
伊藤 豊(2) 尾崎勝美(11)  
岡部恒雄(15) 仲田勝己(16)  
圓山壽和(17) 栗原忠男(20)  
栗原由郎(21) 大澤 誠(26)  
栗原由郎(21) 大澤 誠(26)

表紙は前号からカラーになったが、今号は全頁カラーにした。さらに本文の活字の組み方も変えた。一行の文字数を1字減らして13字に、一段の行数も2行減らして35行にした。わずかな変化かもしれないが多少でも読み易くなれば幸いです。(尾崎)

同窓会総会では毎年OBの中から話題の人に講演をお願いしているが、今回初めて本紙にその要旨を掲載した。滝澤民夫氏(高18)の「初代校長増野悦興の生涯」である。

り起こしも図つたのだが。

OB会が少なくないという事情もあるようだ。一昨年OB会のあゆみと活動を特集したが、今年は活動の掘り起こしも図つたのだが。

昨年70号では「各地区初雁会」会報の発行状況を集めた。今年は「クラブOB会」活動状況を集め、併せてOB会事務局長の座談会を行ったが、出席者が少なかったのは残念であった。実態として事務局を置くOB会が少なくないという事情もあるようだ。一昨年OB会のあゆみと活動を特集したが、今年は活動の掘り起こしも図つたのだが。

## 編集後記

